

テメキュラ市訪問記

今年の7月25日から8月5日までの日程で、大山町姉妹都市アメリカのテメキュラ市を中学生6人が訪問しました。交流事業の感想文の一部を紹介します。

中山中 3年 赤川 七海

私は今回のテメキュラ研修でたくさんのお話を学び、たくさんの方の思いを作ることができました。出発前は初めてのことで不安がたくさんありました。英語が伝わらなかつたらどうしようとか、何を話せばいいんだろうと思っていました。しかし、その不安はテメキュラで過ごすうちに消えていきました。私は英語をうまく話すことができないので、「ジェスチャーと表情を使って伝える」ということを目標としていました。そして、実際にジェスチャーと表情を使って話してみると、私が言いたかったことがちゃんと伝わりました。そこから会話がはずみ英語で会話することへの不安が消えました。

中山中 3年 中井 琳菜

私がテメキュラ市で見学した場所の中で、特に印象に残っている場所が2つあります。

1つ目は、ジェイコブスハウスという施設です。そこは、遠方で事故などに遭い、入院したときに家と病院の往復が大変な家族が無料で泊まれる施設です。ジェイコブスハウスにある家具や生活用品はすべて寄付された物でした。小さな教会もあり、寄付されたお金だけでこんなにも施設が充実していることに驚きました。また、ボランティアを希望する学生もたくさんいると聞きました。多くの方が関わり合って支え合っていることに、改めてテメキュラ市の魅力を感じるようになりました。

2つ目は、マルガリータミドルスクールです。この中学校は、大山町立中山中学校の姉妹校です。

ここでは、優秀な人材を育成するために、数学などに力を入れているそうです。日本のように無償で教科

書が配られるわけではありません。そのため、自分が使う1年分の厚い教科書を図書館で借りて使います。各教科の先生は自分の教室を持っているので授業があるときは、生徒が移動します。また、授業の進度が速いため、勉強が苦手な生徒に個別に教えるような場所も整っていて、勉強にとっても力を入れていることが伝わりました。

マルガリータミドルスクールは、とても広くて綺麗でした。設備も整っていて、先生や生徒が快適に過ごせる場所だと思いました。



▲スクールバスに乗り、サンディエゴのビーチへ出発

中山中 3年 澤田 麗奈

ホストファミリーは、いつも私が喜ぶことをしてくれました。だから私は、研修の途中から「英語力を伸

ばす」という目標を達成することよりも「どうすれば自分の感謝の気持ち伝わるか」ということばかり考えていました。

そこで私は、行動でその感謝の気持ちを伝えようと思いました。なぜなら私は英語が苦手なので、言葉では感謝が十分に伝えられないと思っただけです。でも元々の目標も達成しなくてはならないので、なるべく1人でいる時間をなくしてホストファミリーと会話をするように心がけました。シャノンさんがご飯を作ってお手伝いをしたり、モーガンがシャワーを浴びている間、いつも時間がなくてなかなか喋れないマークさん、シャノンさんと一緒にテレビを見ながら会話をするというような簡単なことばかりでしたが、私にとってはとても意味のあることでした。

私は、このテメキュラ研修では、「感謝の気持ちを伝えるために、自分がどう行動できるか考える」ことが大切であると学びました。感謝の気持ちを伝えるために努力すれば、自分の英語力も上達するし、思いやりを返そうと努力すれば自分にも相手の思いやりが返ってきます。だから私は、これから思いやりの輪を自分から広げられるような人間になりたいと思います。